



統計から社会の実情を読み取る

第153回 変貌する世界の人口ランキング

本川 裕 | Honkawa Yutaka

アルファ社会科学(株)主席研究員

■東京大学農学部農業経済学科卒。勲国民経済研究協会常務理事研究部長を経て、現職。元立教大学兼任講師。農業、地域、産業、開発援助などの調査研究に従事。現在は、「社会実情データ図録」サイト (<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/>) を主宰するかたわら地域・企業調査等を行う。著書に、『統計データはおもしろい!』(技術評論社、2010年)、『統計データが語る日本人の大きな誤解』(日本経済新聞出版社、2013年)、『なぜ、男子は突然、草食化したのか:統計データが解き明かす日本の変化』(同上、2019年)等。PRESIDENT Online にて連載を執筆中。



インドが中国を追い抜き、日本は10位から転落

今年の2月には、2023年の日本のGDPがドイツに抜かれ世界第4位となったことが報じられ、日本経済の低迷を示すものとして注目された。あまり注目されないが、実は、人口のランキングについても日本は低下を続けている。今回は日本及び世界各国の人口ランキングの変化について見てみよう。

不思議なことに、基本的なデータであるにもかかわらず、この連載では世界人口のランキングについて紹介することがなかった。図1には世界150カ国の人口ランキングを面積データとともに示した。人口データは年央(7月1日)ベースの国連推計によっている。

国連人口基金(UNFPA)の「世界人口白書2023」によると、世界の人口は2022年11月に初めて80億人を上回り、2023年の年央推計では80億4,500万人、日本はエチオピアに次いで世界12番目に多い1億2,330万人だったとされる。図1ではまだ日本が世界11位だった2021年央のデー

タを掲げている。

世界の人口超大国は中国14.3億人、インド14.1億人が1~2位である。2023年4月にはインドの人口が中国を上回ったと国連が発表し、それが世界中で報道された。

日本は人口規模では2002年から世界第10位だったが、2020年にはメキシコに追い越されて11位となった(日本の人口ランキングの推移については後段の図4参照)。

面積では、日本は世界第63位である(グリーンランドを除くと第62位)。

面積が大きい国は、大きい順に、ロシア、カナダ、米国、中国、ブラジル、オーストラリアである。インドは人口の多い割に面積はそれほど大きくない。バングラデシュも日本より面積は小さいのに人口は日本より多い。

図では150位未満の国は省略しているが、最少人口の国はバチカンであり、人口511人となっている。

面積 (万平方キロ) 世界計 1億4,049万平方キロ

人口 (万人) 世界計 79億930万人

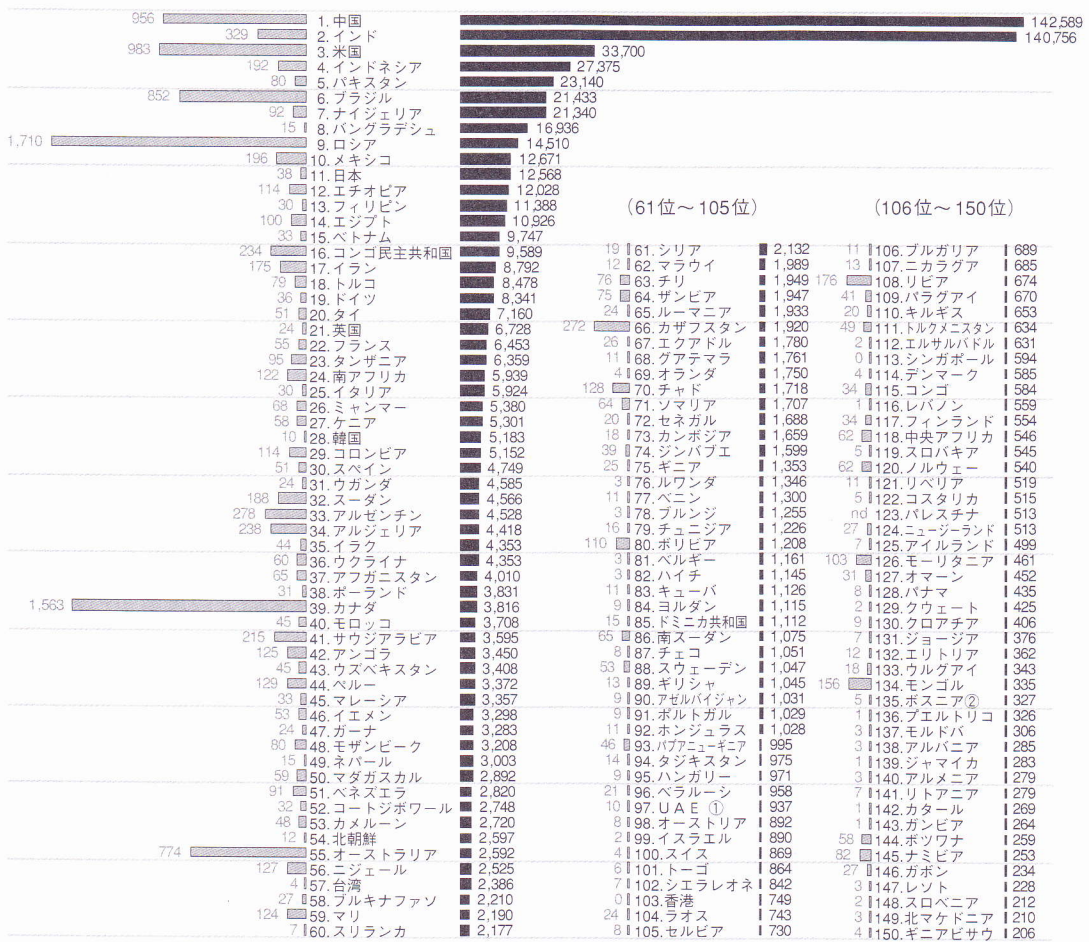


図1 世界150カ国の人口と面積 (2021年)

注) 人口の多い順。人口は年央人口。150位未満は省略。①アラブ首長国連邦、②ボスニア・ヘルツェゴビナ

資料) 人口は国連, World Population Prospects: The 2022 Revision (日本は総務省統計局7月1日推計人口)、面積は世銀, World Development Indicators Online (2024.1.23)、CIA World Factbook (台湾の面積)

今後、大きく変貌する世界の人口分布

世界の人口ランキングには順位の入れ替えが生じているが、その変化は、まだ序の口にはすぎない。今後、大きく世界の人口配置が変化していく点について次に示そう。

基本的に2年ごとに国連は将来人口推計を発表している(最新は3年間隔だったが)。最新の国連の2022年改訂は2022年7月に公表された。

今回も2012年改訂からはじまった2100年までの将来予測がなされた。2100年の世界人口の予測

は103.5億人である。2058年に世界人口は100億人を超えると予測されている。今回の予測で初めて2100年以前に人口が減少に転じると計算されている。ピークは2080年代で約104億人とされている。

図2には、人口トップテンとその人口の推移を示した。

長らく人口大国といえば、第1に中国、第2にインド、そして第3位は米国という順であったが、2100年には、インド、中国、ナイジェリアの順となると予測されている。かつて大インドを構成して

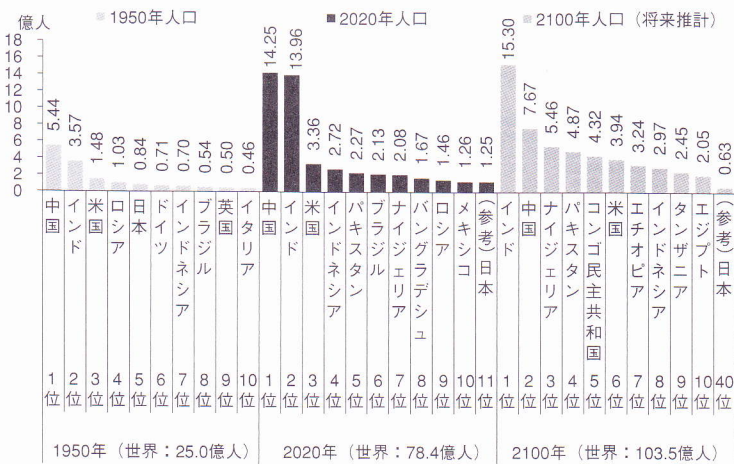


図2 人口トップテンとその人口の推移

注) 年央(7月1日)人口ベース。ただし日本の将来推計については年度央(10月1日)人口ベース。
資料) 国連, World Population Prospects: The 2022 Revision、日本は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」

いたパキスタンとバングラデシュも人口をかなり増加させると予測されているので、南アジアは巨大な人口集積地となる。

この他、人口順位を上昇させる地域としてアフリカが目立っている。現在(2020年)、アフリカの中で10位以内に登場しているのは、第7位のナイジェリアだけであるが、2100年には、ナイジェリアが世界第3位に躍進するとともに、コンゴ民主共和国、エチオピア、タンザニア、エジプトがトップテンに躍進すると推計されている。

日本の人口規模上の地位は、1950年には世界第5位、2020年には世界第11位であったが、2100年には世界第40位(6,278万人)と大きく地位を低下させると予測されている。

日本の人口規模はどんな国に追い抜かれていくか

こうした人口分布の変化を世界各国の人口ランキングの推移として図示してみよう。

図3には主要国の人口ランキング推移を1950年から2100年まで示した。2022年以降は国連の将来推計(中位推計)の結果によっている。ただし、2021年以降の日本は、図2もそうであったが、国立社会保障・人口問題研究所の公式推計結果によっている。

5位から40位へと落ちる日本の順位の傾向的の低落は著しいが、

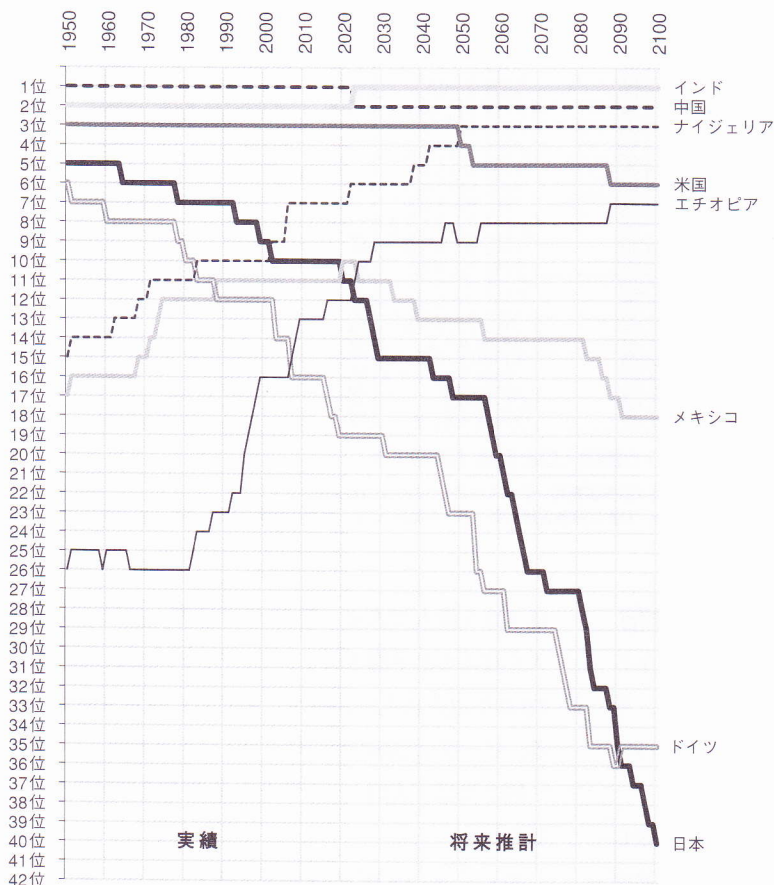


図3 主要国の人口ランキングの推移

注) 年央(7月1日)人口ベース。将来推計は中位推計(2022年以降)。ただし日本の将来推計については2021年以降で年度央(10月1日)人口ベース。

資料) 国連, World Population Prospects: The 2022 Revision、日本は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」

ドイツについても同様に大きく順位を落としていく。現在の欧米先進国の多くも同じだと考えられる。日本の将来人口はドイツ以上に減りが激しいと見込まれているので、GDPだけでなく、人口も2091年にはドイツに抜かれると予測される。

先進国の中で米国だけは2050年頃まではインド、中国に次ぐ世界第3位を維持すると予測されている。それでもそれ以降はナイジェリア、パキスタン、コンゴ民主共和国に抜かれていき、2100年には6位となっている。

メキシコのような中進国についてはこれまで人口ランキングを上昇させ、2020年には日本を追い抜いたわけであるが、今後は、むしろ順位を低下させていくという予測である。2100年には1950年より順位の低い18位となると予測されている。

先進国や中進国に代わって人口比を拡大させていくのはアフリカ諸国であり、図ではナイジェリアやエチオピアの順位の上昇にそれがあらわれている。

こうした人口分布の変化が生じたのちの世界政治はいったいどうなっているのだろうか、想像するのも難しい。

最後に、参考までに、日本の順位急落についてどんな国に刻々と追い抜かれていくのかを図4に示した。

2020年頃までの実績年次では同じ順位を結構長

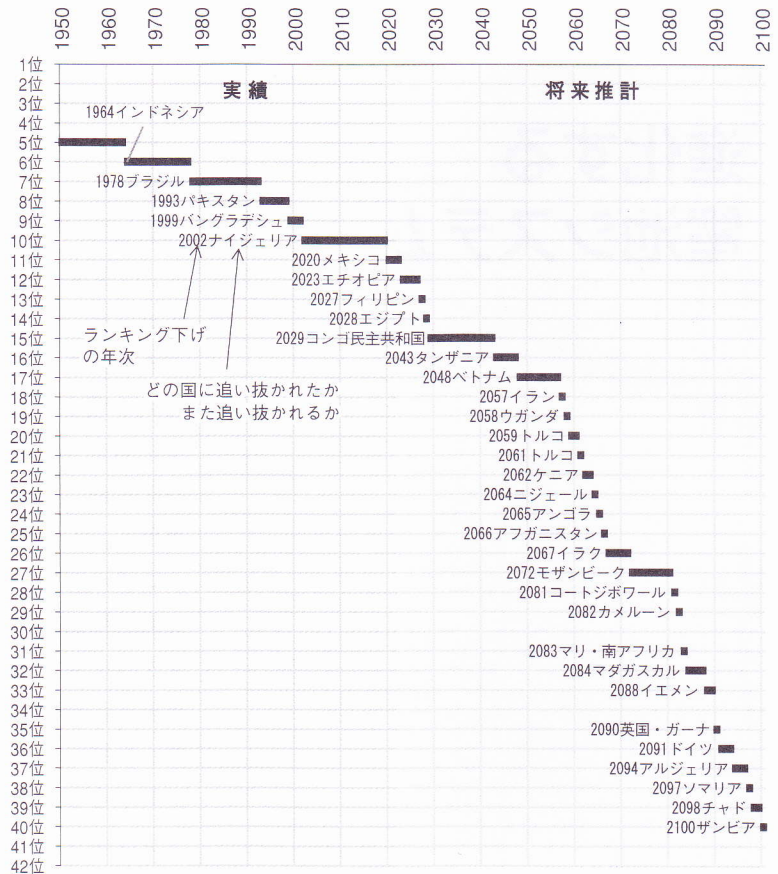


図4 日本の人口ランキングの推移

注・資料) 図2と同じ

く維持してきた。それでも1950年の5位から最近の11位まで、高度成長期のさなか1964年にはインドネシア、オイルショック後の1978年にはブラジル、バブル後の1993年にはパキスタンと人口ランキングで凌駕されてきた。

しかし、これからはさらに順位低下のテンポが速くなる見込みであることが図から明らかである。1年も経ずに順位を低下させることも多くなり、時には2カ国同時に順位を追い越される年も出てくるようだ。さらに、現在の先進国にさえ人口を追い抜かれもする。2090年には英国に、2091年にはドイツに人口規模で追い抜かれることになるのである。